

令和5年（2023年）12月1日  
子ども文教委員会資料  
教育委員会事務局子ども・教育政策課

令和5年度 中野区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和4年度分）の結果に関する報告書の提出について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、中野区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について教育に関し学識経験を有する者の知見を活用した点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので提出する。

#### 1 目的

- ・効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに区民への説明責任を果たし、区民に信頼される教育行政を推進する。
- ・平成29年5月に策定した中野区教育ビジョン（第3次）に掲げる取組に係る点検・評価についても、この教育事務の点検・評価と一体的に実施する。

#### 2 実施方法

中野区教育ビジョンに掲げる成果指標及び取組内容の進捗状況等に係る評価票を作成して点検・評価を行うとともに、外部評価委員会を設置し、学識経験者3名の知見を聴取した。

#### 3 報告書について

別添のとおり

#### 4 今後の予定

令和5年12月 ホームページにて公表

別添

---

令和5年度 中野区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価（令和4年度分）の結果に関する報告書

---

令和5年11月 中野区教育委員会

区民の皆様と共に取り組んでいくために

教育委員会は、政治的中立を確保し、地域の実情にあった教育行政を目的として設置された、首長から独立した合議制の行政機関となっています。教育委員会制度においては、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、教育長及び事務局は、教育委員会が定めた方針に基づき、広範かつ専門的な教育事務を執行することとなります。

中野区教育委員会では、平成29年5月に策定した「中野区教育ビジョン（第3次）」を改訂し、令和5年5月に「中野区教育ビジョン（第4次）」を策定しました。

「中野区教育ビジョン（第4次）」は、これまでの教育理念を継承するとともに、教育理念を実現するための視点として、①「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた教育、②自ら考え、学び、行動する人材を育成する教育、③一人ひとりを大切にする教育、④幼児期からの連続した教育、⑤家庭・地域・学校の連携による教育、⑥生涯にわたり自分らしく学べる教育、⑦学びの環境整備と子どもの安全対策を掲げています。

教育理念である「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」の実現に向けて、教育委員会、中野区が一体となって様々な取組みを進めています。

教育事務の点検・評価は、その取組の成果について教育委員会として独自に点検・評価し、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、区民の皆様への説明責任を果たし、区民に信頼される教育行政を推進することを目的としています。そして、評価結果を事業の見直しや改善につなげるPDCAサイクルを確立して区の教育行政を可視化することにより、より多くの区民の皆様から意見や提案などをいただき、共に協力して取り組んでいきたいと考えています。

令和5年11月

中野区教育委員会

## 〈目次〉

I	教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施について	1
1	実施の概要	
2	実施の目的	
3	点検・評価の進め方	
(1)	実施方法	
(2)	評価の視点	
(3)	点検・評価の流れ	
(4)	自己評価	
(5)	重点項目	
(6)	学識経験者の知見の活用	
II	点検・評価結果について	
1	点検・評価に関する学識経験者の意見	
(1)	総評	4
(2)	外部評価委員からの講評	6
2	重点項目シート	
(1)	確かな学力の定着（知）／教員の授業力向上	9
(2)	豊かな心を育む教育の充実（徳）	10
(3)	体力・運動意欲の向上（体）／健康の保持増進	11
(4)	外国語活動・英語教育の充実	12
(5)	I C Tを活用した学習指導の充実	13
(6)	就学相談・発達段階に応じた支援体制の充実	14
(7)	いじめ対策及び不登校傾向の児童・生徒の支援強化	15
(8)	学校図書館の充実	16
	教育事務の点検・評価における重点項目一覧（令和4年度及び令和5年度）	17
III	自己評価シート	
	目標Ⅰ「人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている」	19
	就学前教育の充実	20
	家庭の教育力向上へ向けた支援	21
	幼児期の特別支援教育の推進	22
	目標Ⅱ「子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている」	23
	確かな学力の定着	24
	理数教育の充実	24
	外国語活動・英語教育の充実	25
	I C Tを活用した学習指導の推進	25
	小中連携教育の推進	26
	特別支援教育への理解促進	26

就学相談・発達段階に応じた支援体制の充実	26
発達障害教育の推進	27
教員の授業力向上	27
目標Ⅲ「自他の生命や人権を尊重する教育が行われ、さまざまな体験活動を通じて、子どもたちの豊かな人間性・社会性が育っている」	28
豊かな心を育む教育の充実	29
国際理解教育の推進	29
いじめ対策及び不登校傾向の児童・生徒の支援強化	30
目標Ⅳ「子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている」	31
健康の保持増進	32
体力・運動意欲の向上	32
目標Ⅴ「保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる」	33
保幼小中連携教育の推進	34
家庭・地域と連携した教育	34
子どもの安全対策の推進	35
開かれた学校経営	35
目標Ⅵ「地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をととしての社会参加が進んでいる」	36
区民の生涯学習活動への支援	36
目標Ⅶ「子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、生活の質を高めている」	37
歴史文化・伝統文化の保護、継承	38
図書館機能の充実	38
だれもが利用しやすい図書館の整備	39
<b>【参考資料】</b>	
1 重点項目シート別紙	40
2 自己評価シート別紙	41
3 中野区教育委員会事務局組織図及び事務分掌	54
4 教育事務の点検・評価の実施に関する要綱	56

# I 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施について

## 1 実施の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、各地方公共団体の教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について教育に関し学識経験を有する者の知見を活用した点検及び評価（以下「教育事務の点検・評価」といいます。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

（参考）「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 実施の目的

- 教育事務の点検・評価を行うにあたっては、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに区民への説明責任を果たし、区民に信頼される教育行政を推進します。
- 平成29年5月に策定した中野区教育ビジョン（第3次）の点検・評価についても、この教育事務の点検・評価と一体的に実施します。

## 3 点検・評価の進め方

### （1）実施方法

教育事務の点検・評価は、毎年度別に定める要領に基づき、別に定める中野区教育ビジョンに掲げる成果指標及び取組内容の進捗状況等に係る評価票を作成することにより実施しました。また、外部評価委員会を設置し、当該委員会委員の知見を聴取しました。

### （2）評価の視点

- ① 中長期的な視点で点検及び評価を行うこと。
- ② 教育行政全般にかかる目標の体系に基づく課、施策及び事業の成果、効率性及び必要性について、横断した視点で点検及び評価を行うこと。
- ③ 数値等で表しにくい目標や成果についての、点検及び評価を行うこと。
- ④ 点検・評価結果を公表し、区民からの意見、提案等を求めることにより、透明性のある教育行政を実現し、説明責任を果たしていくこと。
- ⑤ 点検・評価結果を目標策定並びに実施事業の見直し及び改善に活用することにより、マネジメントサイクル（計画－実施－確認（評価））を確立すること。

### (3) 点検・評価の流れ

- ① 教育委員会事務局による自己評価シートの作成
- ② 自己評価シートに基づく重点項目シートの作成
- ③ 外部評価委員会の開催（全4回 評価対象は重点項目シート）

### (4) 自己評価

中野区教育ビジョン（第3次）第3章「教育ビジョンの目標体系と今後5年間の取組の方向性」の全ての項目を対象に自己評価シートを作成し、自己点検・評価を実施しました。

#### ○教育ビジョン目標体系

- ・目標Ⅰ 人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている
- ・目標Ⅱ 子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている
- ・目標Ⅲ 自他の生命や人権を尊重する教育が行われ、さまざまな体験活動を通じて、子どもたちの豊かな人間性・社会性が育っている
- ・目標Ⅳ 子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている
- ・目標Ⅴ 保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる
- ・目標Ⅵ 地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をとおしての社会参加が進んでいる
- ・目標Ⅶ 子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、生活の質を高めている

### (5) 重点項目

中野区教育ビジョン（第3次）第2章「教育理念を実現するための視点」に基づき重点項目を設定し、外部の学識経験者による点検・評価を実施しました。

#### ○令和5年度重点項目一覧

視点① 「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた教育		
重点項目	1	確かな学力の定着（知）／教員の授業力向上
重点項目	2	豊かな心を育む教育の充実（徳）
重点項目	3	体力・運動意欲の向上（体）／健康の保持増進
重点項目	4	外国語活動・英語教育の充実
重点項目	8	学校図書館の充実
視点② 自ら考え、学び、行動する人材を育成する教育		
重点項目	5	ICTを活用した学習指導の充実
視点③ 一人ひとりを大切にする教育		
重点項目	1	確かな学力の定着（知）／教員の授業力向上 ※再掲
重点項目	6	就学相談・発達段階に応じた支援体制の充実
重点項目	7	いじめ対策及び不登校傾向の児童・生徒の支援強化

## (6) 学識経験者の知見の活用

本年度の点検・評価を行うにあたり、以下のとおり外部評価委員会を設置しました。

### ① 外部評価委員

氏名	所属等
和泉 徹彦	嘉悦大学経営経済学部教授
小松 郁夫	京都大学学際融合教育研究推進センター 地域連携教育研究推進ユニット特任教授
小宮山 郁子	目白大学人間学部児童教育学科教授

※敬称略、五十音順

### ② 外部評価委員会の実施

- ・ 第1回外部評価委員会 7月18日(火)  
事業説明及び自己評価内容に係るヒアリング(1回目)
- ・ 第2回外部評価委員会 8月1日(火)  
事業説明及び自己評価内容に係るヒアリング(2回目)
- ・ 第3回外部評価委員会 8月22日(火)  
外部評価とりまとめ
- ・ 第4回外部評価委員会 10月26日(木)  
外部評価結果報告及び教育委員会と外部評価委員による意見交換



## Ⅱ 点検・評価結果について (学識経験者からの意見等)

### 1 点検・評価に関する学識経験者の意見

#### (1) 総評

##### ① 外部評価による評価・改善

外部評価委員会では、各所管が作成した重点項目シート（P9～）について、各所管課にヒアリングを実施したうえで評価を行った。

ヒアリングにおいては、各所管課が事業ごとの目標や成果指標を意識し、現状と課題の把握に努めながら取組を進めていることが確認できた。以下に評価概要を述べる。

中野区では、令和4年4月に「子どもの権利に関する条例」が施行された。各学校では、人権やいじめ、偏見や差別の防止についての授業を実施したり、学級活動や生徒会活動等で、児童生徒の意見や考えを表明する機会を設ける等、周知・活用を行ってきた。

子どもの権利という問題は、幅広く人権に繋がるテーマであるため、子どもたちがしっかりと理解し、実践力が身に付くような活動を行ってほしい。また、区では、特別な支援を必要とする子どもが増加傾向にある。支援方針の決定にあたっては、最適な支援方法について、どのように保護者と話し合い、理解を得ていくのかということが重要である。子どもの学ぶ権利を保障するためにも、教育の専門家として、教育委員会の積極的な支援を期待している。

令和4年12月に、生徒指導提要が改訂された。いじめについては、教員が必要な手立てを行うとともに、いじめを生まない環境づくりやいじめをしない能力・態度を身に付けるといった未然防止や、子ども自身がいじめを自分たちの問題として受け止める力を身に付けるといった、子どもの主体的な関わり合いを重視した指導をするという捉え方に変わってきている。このような変化に教員が対応できるよう研修等を通して指導力・対応力を身に付けていただきたい。

令和3年度に運用が開始された一人1台端末については、各教科の授業等での活用状況が確認できた。具体例として、ニュージーランドで日本語を学んでいる学生とオンラインでの交流を行ったり、各児童生徒の端末に、学習アプリを導入することで、児童生徒の主体的な学びに繋げている。学習アプリをより効果的に活用するためには、教員が児童生徒一人ひとりの学習状況をログ等で把握し、一人ひとりの学習状況に応じた適切な指導や、適切なタイミングでの教員の支援が重要である。アプリを活用する際の教員の介入については、研修・研究を行っていただきたい。ICT機器には、これまで挙げたように、子どもの個別最適・協働的な学びに活用できるというメリットがある一方、使い方によっては、他の人を傷つける道具にもなり得る。メリットを生かした活用方法を教員と児童生徒が一緒になって考えると同時に、デメリットについては、情報モラル教育を家庭への啓発や連携も含めてしっかり行っていただきたい。

今回の点検・評価では、新しく「学校図書館の充実」が重点項目として設定された。

学校図書館は、子どもの学びを保障する重要な環境設備の一つである。中野区が令和4年度から学校図書館の整備に力を入れ始めたことを大いに評価する。製本された本のみならず、パソコンや電子書籍等の幅広い学習資源を整備し、探究学習や子どもの主体的な学びに活用していただきたい。

## ② 今後の課題について

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症を意識した特例措置的な学校運営が終了し、生徒指導提要が改訂される等、教育の新たな時代に向かう転換期であった。中野区では、コロナ禍をきっかけにGIGAスクール構想の実現が進み、先述のとおり、一人1台端末を授業等に上手に活用している。また、教員の働き方改革の中で、教科担任制の実施や授業・学校運営で様々な人材を活用する等、学びのために教員の授業改善に力を入れていることが分かった。

しかし、より一層子どもたちが確かな学力を身に付けるためには、更なる教員の授業力向上が求められる。そのために、校長が各教員の授業をきちんと見て、その授業に沿った指導・助言を行うといったリーダーシップを発揮することが重要である。また、子ども自身が何のためにどう学んでいるのかを見通した、主体的・対話的で深い学びができているか、学習指導要領の趣旨が具体的に展開できているか、ということ指導者側が意識して進めていかなければならない。

さらに、授業力の向上だけではなく、誰かが誰かに教える、先輩教員が若手教員を導いていくといった校内での体制を整え、教員同士がお互いの能力を伸ばし合えるような環境づくりにも取り組んでいただきたい。

最後に、転換期を迎え、学校のあり方や教育のあり方を見直し、本格的に変えなければいけない状況にあるのではないだろうか。

例えば、修学旅行をはじめとした校外学習については、何のために何をしに行くのかということや、また、黒板とチョークと教科書を用いた従来の学びの形は、求められている学びの姿なのかということ改めてよく考え、判断し、改善すべきだということである。

転換期はこれらを見直す良い機会だった。当事者である教育委員会が、そのような状況を認識し、中長期的な戦略を持って手立てができているかが、重要である。

中野区でも時期を捉えて様々な取組を行い、成果を上げていることは評価できるが、10年後20年後に活躍する若者たちを見た時に、まだまだ足りない部分があるのではないだろうか。コロナ禍が収束し、教育に関する新しい考え方が示された令和4年度を良い機会と捉え、教育委員会を中心に、今後求められる教育のあり方に向けて、しっかりと準備をしていただきたい。

## 教育DXと「最適化」に向けて

教育に関する事務の点検・評価に係る外部評価に取り組む6年目となった。社会保障を専門とする経済学者である私の視点は、子ども・子育て会議や基本構想審議会での経験を踏まえながら、子どもたちを取り巻く家庭・地域・学校の環境をよりよいものにし、支援の必要な子どもに手を差し伸べるところにある。

コロナ禍の対応において我々が得たものは、一人1台端末の前倒し普及と教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展、そして児童生徒だけでなく教員や学校組織が次第に適応した過程である。令和5年5月、世界保健機関が緊急事態宣言を解除し、日本政府も続いた。令和4年度の教育に関する事務について点検・評価を行うにあたって、コロナ禍で制限されていた教育活動が変化していく状況について確認することになった。単に日常を取り戻したり復旧したりにとどまらず、教育DXという新たなツールを手にして新たな高みを目指すことになった。教育DXには3つの段階があると文部科学省総合局教育DX室は示している。第1段階は「電子化」、第2段階は「最適化」、そして第3段階は「新たな価値」である。

中野区の現状は他の自治体と同様に、第1段階の「電子化」の途中に位置している。その理由には、政府がデジタル教科書普及の途中にあることも含まれている。一人1台端末と現行の教科書・ノートをランドセルや通学鞆に入れて、その重量に耐えるのは早期に解決してやりたい。令和5年7月に始まった「西東京市子ども電子図書館」は、電子書籍活用の先行事例として参考になる。学校図書整備に大きな変化をもたらす可能性がある。第1段階を締めくくりにあたって、家庭や地域との情報共有の電子化も忘れてはならない。学校ホームページに給食献立表を掲載するだけでなく、教育活動に関する学習履歴の確認なども電子化し、それを受け止める家庭側のデジタルデバイドを解決する工夫も期待したい。

学校現場では様々な学習アプリを試行している最中であり、令和5年度から学習履歴（ログ）を残せる学習アプリに移行するという一方で、第2段階の「最適化」に進む準備が一つ整ったと言える。第2段階「最適化」では、ICT・データ活用による指導・教育が行われるようになる。一部の学習アプリはAI（人工知能）をうたっており、正解不正解に応じて次に出题する問題の難易度を調整したり、単元理解が完全に目標に到達するまで繰り返し出题したりする機能を持っている。学習者である児童生徒の進捗や行き詰まりを学習履歴によって把握し、適切な指導や教育を行うのが伴走者としての教員の新たな役割である。

第3段階「新たな価値」に到達できれば、教育データ深層学習により様々な予測が可能になり、児童生徒の異常の予兆を感知して、先回りした指導・教育ができるようになる可能性がある。ただし、これはまだ仮説検証が行われる研究段階にあり、具体的な姿は見えてきていない。

昨今の生成AI技術の進展は、大きく学習環境を変えようとしている。うまく利用すれば児童生徒の作文を自動添削してくれたり、探究学習で見落とししている要素を気づかせてくれたりするツールとして活用できる一方で、悪用すれば児童生徒の成長を妨げる安易な解答作成ツールにもなってしまう。学校現場と家庭が連携し、教育資源の一つとして生成AIを活用できる方向性が望ましい。学校外の教育資源を選定し、関係者が連携しながら活用していくのが「最適化」への道である。

## 学校・保護者・区民・行政が協働して「中野型」教育改革の推進

新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが、令和5年5月8日から「2類相当」から「5類」に引き下げられた。その結果、最近ではこれまでの日常生活が徐々に戻りつつある。評価対象とした令和4年度は、さまざまな感染症対策に関しても、多くの施策で、初期の頃に比べると効果的な実践が取り組まれており、改めて関係者の努力に敬服する。

### 教師と児童・生徒の協働で確保できた学力

この間のコロナ禍で一番危惧されたのが、「確かな学力の定着」であり、それを保障する「教員の授業力向上」であった。中野区の多くの学校や教室では、教員が学校全体での取組を主体的に受け止め、児童・生徒の学習内容との出会わせ方を工夫し、学びに際して解決を目指す課題設定を提示して、課題解決に向けた納得感のある指導や助言を与えるなど、優れた指導力を発揮したように感じている。

こうした努力は、学習指導要領などで目標としている、学びの後の振り返りのプロセスにおいて、学習内容の価値づけを意識させ、次の学習へのつながりを結び付けられる主体的に学習に取り組む態度の育成へと進化しているように思う。海外では、コロナ禍で、学力低下が観察されたという情報もあるが、データで見る限り、中野区で深刻な状況を克服できていたのは、学びを止めたくないという強い意思が、教師と児童・生徒の双方で意識されていたからではなかったかと評価できる。これは中野区教育の情報化推進計画がICT教育推進リーダーなどの活躍もあって、徐々に定着をし、成果を挙げつつあることを示している。

### いじめ対策及び不登校傾向の児童・生徒への支援は多様な取組を持続的に

いじめの認知件数は、残念ながら増加傾向にある。しかし、これは全国的な動向で、中野区だけに顕著な課題とは言えない。学校内での認知度が向上し、粘り強く取組を続けている状況の表れではないかと理解する。いろいろな対処の工夫を組織的に重ねて、児童・生徒の間に望ましい人間関係づくりを育成し、他者との共生や協働を形成できるようなコミュニケーション力を身に付ける指導や助言、機会の工夫などを引き続き継続して欲しい。

不登校対策の課題は、根底に学校という集団的な学びの場に対する不信感や公教育に対する非寛容的な意識をどう理解するかなどとも関連している。学校制度という学びの環境に対する肯定的な考えが、関係者間でより具体的に深化されるような対応を進める必要がある。

### 次なる教育改革に先進的に取り組んで欲しい

この1年間の関係者の取組に関しては、おおむね首肯しうる内容がほとんどであると評価できる。しかし、近い将来において教育界が直面する課題や目指すべき目標は、現状の延長戦や連続性においてのみ存在するのではないと懸念している。どこかで、思い切った飛躍や不連続の革新的な施策が不可欠になるものと予感している。教育行政が全体の制度やシステムを破損しない程度で進行するだけでは、予期せぬ混乱や難局に対処できないのではないかと案じている。その象徴的なテーマがDX（デジタルトランスフォーメーション）革命に教育がどう立ち向かうかだと思う。一日も早く準備と取組を開始して欲しいと期待する。

## 人を育てる たゆまぬ歩み～その5～

### ○教育行政はリーダーシップもフォロワーシップも

「中野区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱」の第2条目的には、「(前略) 効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、区民への説明責任を果たし、区民に信頼される教育行政を推進すること」、第2条(5)には、「評価結果を目標策定並びに実施事業の見直し及び改善に活用することにより、マネジメントサイクルを確立すること」と明示されている。改めて要綱を挙げたのは、本委員会の資料及び関係部署の方からの説明に、その目的に迫るものを強く感じたからである。その一は、資料「指摘を受けた対応」に、例年以上に具体的な改善や実施成果が多く記されていたことである。評価委員5年目の私は、驚くとともに嬉しさを感じ感謝の念を抱いた。その二は、根拠として具体的な児童・生徒の実態や予算等を、さらに明確な数字で示していることである。評価委員が、常にエビデンスに基づく施策の必要性を指摘してきたことに応えている。その三は、重点項目以外に「学校図書館の充実」という本区の重要課題を取り上げ、継続的な施策を打ち出し実施が始まっていることである。なお、本委員会において、私は、他の委員や担当部署の方から多くのことを学ぶとともに、省察していることも付け加えておく。

さてこの5年間本区教育行政は、コロナ禍における対応、GIGA スクールの実現、小学校における外国語科や教科担任制の実施、教員の働き方改革等、実に多くの課題に対応をして来た。さらに、未来を見据え地域に根差した教育へのリーダーシップを発揮するとともに、学校や区民に対して頼もしいフォロワーシップを発揮することも期待したい。

### ○笑顔があふれる教育を

本年6月に閣議決定された、新たな教育振興基本計画の総括的な基本方針として「持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示された。どちらも、教育に関わる者は理解し自らの取組等に反映することが肝要である。本区では、区学力調査で「主体的に学習に取り組む態度」の分析に工夫をしている。学校教育では、授業の質の向上が何をおいても重要であることは論をまたない。教員は、目の前の子どもたちの実態を正しく深く理解し、教材や学習活動等を工夫し「なぜだろう」「分かった、できた」「またやりたい」という学ぶ意欲や達成感にあふれた子どもの笑顔によって、自らも笑顔になる。『教えるは学ぶの半ばなり』（書経）を体験することができる。ウェルビーイングの要素として文科省が挙げている「幸福感」や「自己肯定感」、「心身の健康」などを子どもたちに育てる教員自身が、それらのことを実感できるように、「教員の働き方改革」は、社会一丸となって早急に進めていかなくてはならない。私は教員養成の立場で仕事の尊さを強調し、一人でも多く「よい教員」を送り出す使命を強く感じている。中野区の教育のたゆまぬ確実な歩みと向上をさらに期待するとともに、今後とも微力ながら応援していきたい。

) a p ¶ ¬ â | ó

r r r      ¨ ¥ "      r	
w	
<p>μ w w s s t s s</p> <p>Ô s s s t s t</p> <p>μ Ô s ° s ± s ° s " " ± t s</p> <p>Ô &lt;6G s s ° &lt;6G " " ±</p> <p>° &lt;6G ¨ w ¥ ± t</p>	
	<p>Ô ° s ² ³</p> <p>² ³ s ±</p> <p>Ô ° s s S# \$(</p> <p>Ô &lt;6G &lt;6G " " t</p> <p>s &lt;6G w t</p>
w	<p>Ô w w ° ±</p> <p>w</p> <p>β ° ± fl % fl</p> <p>β s s s</p> <p>t</p>
	<p>Ô &lt;6G ° ± °</p> <p>±</p> <p>Ô s s s</p> <p>Ô &lt;6G " " s ° s &lt;6G t</p> <p>± w " s</p> <p>Ô s " s</p> <p>t</p>
	<p>Ô s ° ± t s</p> <p>Ô &lt;6G t s ° ± t s</p> <p>, t s s</p> <p>t</p>
	<p>s t s s w w s</p> <p>CE t t CE</p> <p>s w s s t</p> <p>t t s</p> <p>t</p>











































































































